

専門教育科目の概要

学類共通専門教育科目 人文科学系科目

授業科目名	講義等の内容
日本語理解論	文字言語を介した多様なジャンルの文章(説明文・論説文、物語・小説、詩歌、古典)の内容を的確に読み取り、文章の構成や表現の特色を把握する。これとともに文章に描かれた人物、心情、情景、思想等を読み味わう方法を習得する。
日本史入門	日本の歴史を学ぶことは、我が国への理解を深めるのみならず、近隣諸国との関係性を理解する上でも不可欠である。また、歴史を学ぶことで現代を相対化する視座を身につけることも可能となるだろう。この講義では、近現代史の学習を重視しつつ、日本史の全体像を把握することを目指す。
日本文化概論	原始・古代から現代までの我が国で展開した信仰・芸術・学問などについて、歴史学の立場から概観する。過去と現在との相違点・共通点を考えることで、歴史・文化を客観的に捉える力を身につける。
文化人類学	人類学は「人間の科学」である。幅広い人間探求から生まれた「人間の行動原理」を究明する学問である。「人間に関するロジック」なので当然すべての学問の基礎学問にもなる。講義では主に「交換論」の立場から「人間関係」の暗号を紐解く。講義では「他者を知ること」、「自分を知ること」が如何に重要なのか示して行く。
人間関係論	人間関係論では個人と集団の相互作用過程について扱う。特にグループ・ダイナミックス(集団力学)の知見に基づき、日常的な人間関係の内に潜む社会的影響や人間行動の法則性について検討する。また、本講義ではグループ・ワークを通して、対人関係の諸課題を把握し適切な集団運営を行うためのスキルを体験的に学習することを目指す。
日本語表現論	「書く」「話す」を媒介として、文字言語による表現行為を理解するとともに、表現活動に関する基本的な事項を習得する。日本語による表現活動に不可欠の知識や技能を広く深く習得させる。表現(作文)の指導過程を具体的に習得させ表現力を定着させる。相手や目的に応じて表現する能力や思想、心情を文種によって、文章構成を創意工夫し文章をまとめる表現力を培う。すぐれた文章表現や作品に接して、自己表現に役立てる文章力を高める。

学類共通専門教育科目 社会科学系科目

授業科目名	講義等の内容
経営統計学	<p>入門レベルの統計学について講義をする。統計学とはデータから分析対象の状態を記述したり、一部の標本から全体像を探ったり、自分のたてた仮説を検証したりする学問である。主にテキストに従って進め、学んだことを実際のデータを使って応用できるようにコンピュータセッションも行う。</p>
観光学概論	<p>本講義では、観光学を学ぶために必要となる基礎的な知識の理解と習得を目指す。観光は多様で複合的な人間行動であり、その産業は様々な業種から構成される裾野の広い複合産業である。世界各地においても多様な観光資源が、多種多様な旅行者を惹きつけてやまない。本講義では、(1)観光学基礎の理解、(2)観光旅行者の視点、(3)観光デスティネーションの視点、(4)その他観光を取り巻く環境について理解を深めることとする。とりわけ、沖縄においてはその立地条件や自然資源により観光を学ぶ適地であるので、適宜、沖縄の事例を通して観光産業について修学する。</p>
地域研究方法論	<p>地域研究は、確固たる理論および方法論を持った学問分野としては未だ確立されていない。むしろ、既存の一分野だけでは分析が困難な多領域にまたがる問題群を、「地域」をキーワードに多角的、包括的に見ようとする学際的試みといえる。本講義では、地域研究(area studies)誕生の歴史的経緯と変遷を学ぶとともに、「地域」を研究することの現代的意義を考えていく。また、具体的な研究例の紹介とレポート作成を通して、ひとつの学問分野や理論に捉われない多角的視点から対象地域を研究するための素地を養う。</p>
社会調査法	<p>この授業科目は、現地調査やアンケート調査によって科学的データを収集し、分析し、意思決定する技術を身につけることを目的とする。具体例をまじえて調査計画、調査票作成、対象者の選定、実施に至るまでのプロセスについて受講者の参画を積極的に求め、社会調査の基礎と実際について理解を深める。</p>
経営情報論	<p>現代の企業は厳しい競争環境の中で生き残りをかけた戦略を展開しており、経営情報システムはますます重要になってきている。企業や組織においては、急速に進歩している情報技術やインターネットの活用を行い、競争の優位性を達成することが重要な課題になってきている。当講義では経営情報論の基礎理論から入り、経営情報システムについて学習し、さらにインターネットによるビジネスや、最新の情報技術についても学習する。</p>
地域社会論	<p>現在、在日韓国・朝鮮人は約 70 万人に達する日本における最大のマイノリティ集団である。当該社会は世代交替の課程で固有のエスニック・マーカールの衰退と、マジョリティ社会への適応の度合いを深めている。本講義では、在日の歴史を基調とし、特に若者世代のアイデンティティの現状にスポットをあてる。</p>
社会心理学	<p>この授業科目では、同調行動や援助行動などの著名な社会心理学的研究成果を「道具的適応」という観点から捉え直し、なぜ人間の心に「社会性」が備わっているのか、その必然性について論証する。また、専門用語および研究方法についても具体例をまじえて解説し、社会心理学の現状と課題を学ぶ。</p>

学類共通専門教育科目 自然科学系科目

授業科目名	講義等の内容
コンピュータ概論	本講義では、主にコンピュータそのものに焦点を当てて、情報システムにおける、コンピュータのハードウェアや周辺機器、OS、ソフトウェア等の仕組みや概念を理解する。
情報処理論	コンピュータ概論にて学んだコンピュータの基礎知識を基に、情報処理技術者としての知識を得るべく、情報処理全般の社会との関わりについて学習する。具体的には、情報システムの評価・運用と管理、社会における情報システムの考察、企業の業務知識とシステム化の啓蒙、情報ネットワークの種々の視点からの活用法などを学ぶ。
情報化社会論	情報化社会で仕事をするには、専門的な情報技術だけでなく利用者目線、業務、ビジネス、技術者倫理といった情報の社会的な側面についての知識も不可欠である。本講義では、「データ・情報・知識をどのように処理、管理したら良いか」という視点に立ち、広い分野ではあるが基本的な概念を学習する。
自然保護論	いまや自然環境の保護・保全、生物多様性の保全及び持続可能な利用を図ることが国際的に重要視されている。これは、人間の活動がいかに自然環境を改変し、資源を消費し、廃棄物を放出してきたかを示すものである。本講義では、自然の実体についての理解を深め、自然保護について議論していく。主に沖縄の事例を示し、地域の自然、現状等の理解を深めることも目的とする。
沖縄の天然記念物	生物を含めた貴重な自然物には、天然記念物として法的に保護されているものが多い。沖縄では、自然の構成要素の多様さやユニークさから、特色ある生物や生物群集および地質・地形が少なくないが、島の面積が小さい割には国内他地域に比較して数多くの天然記念物が指定されている。それらの天然記念物を学ぶことは、「おきなわ」を理解する有効な方法の一つである。この講義では、沖縄の天然記念物を主たる対象として詳しく学習すると共に、その現状と課題を考察し、発展的で有効な活用と保護について共に考えたい。
島嶼環境論	主として自然地理学、地形学、地質学、水文学、気象学等の観点から島嶼環境の特徴を概説する。その上で、島嶼における人間活動との相互作用と、それによって生じる環境上の諸問題について講義する。これらを通じて、島嶼地域における望ましい人間と環境とのあり方について解説する。
情報と職業	本講義では、情報化社会において主体的に参画することができるような人材を育成することを目標とする。すなわち、社会人として自らの職業を考えるにあたり、情報と職業の関わり方、職業倫理の一環としての情報モラル等を包括した健全な職業観や勤労観を育成する。なお、「情報」の教員免許取得予定者は必須の講義である。

学類共通専門教育科目 学際・統合系科目

授業科目名	講義等の内容
国際学群特別講義	国際社会で活躍している研究者や実務家を広く学内外から招聘し、学際的な研究事例、最新の社会動向などについて紹介する。なお、開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。
国際文化系基礎演習	国際文化専攻への進学を希望する学生を対象としたガイダンス科目である。演習の前半は、各教員が専門領域について解説するオムニバス講義とし、中南米地域、アジア地域（東アジア・東南アジア）、沖縄、日本の4地域とそれらを越えた領域としての国際協力、さらに人間の学としての美術史、文化人類学についての紹介を行う。それを踏まえ、後半は各教員の仮ゼミに分かれて「グローバル／ローカル」という共通テーマのもとで、国際社会や地域に関する文献の収集・精読を行う。最後にまとめとして、仮ゼミにおける活動成果を全体発表会で報告する。この演習を通して、国際文化専攻で扱う領域についての基礎的な理解を目指すと共に、ゼミ活動を行う上での研究姿勢を身につける。
語学教育系基礎演習	語学教育専攻の教育内容を詳しく学生に理解してもらうための専攻のガイダンス的な講義である。英語教員、日本語教師の各コースに関する大学での講義内容や実習内容、年次ごとの履修モデル、就職先や進学先などを説明する。留学生との交流、卒業生を招き、就職体験や進路決定の様子などを聞く。さらに、各担当教員ごとで各領域の特色を生かしたコース学習を行い、成果を発表会で披露する。
経営系基礎演習	経営専攻の履修希望学生に向けた前専門的演習科目である。問題指向的なマネジメントを行えるマインドとスキルの重要性を理解してもらうために、地域の活性化やリーディング産業等をテーマに、ゼミ形式で演習を行い、その学習成果を発表して共有する。本演習によって、学生は多様化・多次元化するマネジメントの様相を理解し、自らの適性・興味を考慮した専攻選択の機会を得る。
情報システムズ系基礎演習	我々のまわりには様々な情報システムがある。これらの情報システムは我々が生活していく上で必要不可欠なものとなっている。今後もさらに新しいシステムが造られ生活の中に取り入れられることであろう。情報システムズ系基礎演習では、コンピュータを利用した演習を取り入れ、このようなシステム全体についての基礎を学ぶ。
診療情報管理系基礎演習	診療情報管理系基礎演習では、診療情報管理に関する講義とグループワークの2つを取り入れている。講義の部分では、診療情報管理に関する内容のほかに、コンピュータを利用した演習も取り入れている。グループワークの部分では、医療に関するテーマを各グループで設定し、自主的に行動し、自ら感じ、考えたことを、他者に頻繁に言語化(文章化、プレゼン)し、他者が感じ、考えたことを、傾聴し、質問し、理解をし、自らの考えを修正する。グループワークを通して、チームワークが重要であることを理解し身につける。

授業科目名	講義等の内容
観光産業系基礎演習	観光産業専攻を選択したいと考えている学生のためのガイダンス科目となっている。当専攻は観光政策・ビジネス、環境・エコツーリズム、観光文化の3つのコースが設定されている。各コースのカリキュラムの特色、科目の内容、及び育成する人材像等について専任教員が持ち回りで講義する。その上で、課題レポートを作成し、観光産業の現状と課題について理解を深め、3年次から始まる専攻科目に対応できるよう、基本的な姿勢と学習方法について学ぶ。
国際文化専門演習 I	演習指導教員のもと、国際文化系学問の研究領域に関する文献・資料を検索・講読しながら実証的研究の手法を修得する。さらに収集した文献・資料を批判的に読み解き、理論・仮説を組み立てる方法を修得して、各自の専門研究領域を選択する。
経営情報専門演習 I	演習指導教員のもと、経営情報研究領域に関する文献・資料を検索・講読しながら実証的研究の手法を修得する。さらに収集した文献・資料を批判的に読み解き、理論・仮説を組み立てる方法を修得して、各自の専門研究領域を選択する。
観光産業専門演習 I	各研究室の研究分野に沿ったテーマに関する文献講読やフィールドワークにより専門的知識と研究手法について学習する。
国際文化専門演習 II	国際文化に関する先行研究や理論を体系的に収集・理解・整理し、専門研究領域における自己の問題意識の位置づけを明確にする。さらに指導教員・ゼミ仲間とのディスカッションを通じて、自己の論理構成に飛躍や矛盾がないかチェックしながら卒業研究のテーマを設定する。
経営情報専門演習 II	経営情報に関する先行研究や理論を体系的に収集・理解・整理し、専門研究領域における自己の問題意識の位置づけを明確にする。さらに指導教員・ゼミ仲間とのディスカッションを通じて、自己の論理構成に飛躍や矛盾がないかチェックしながら卒業研究のテーマを設定する。
観光産業専門演習 II	各研究室の研究分野に沿ったテーマに関する文献講読やフィールドワークにより専門的知識を修得するとともに、報告書を作成するスキルを身に付け、次年度の卒業研究のテーマを検討する。
国際文化専門演習 III	各自の設定した研究テーマおよび研究計画を専門領域ごとに発表しあい、研究の目的・独自性・倫理性・手法の妥当性・実証性などの観点から相互に検討した上で、卒業研究の成果物（卒業論文／卒業制作）の作成に着手する。
経営情報専門演習 III	各自の設定した研究テーマおよび研究計画を専門領域ごとに発表しあい、研究の目的・独自性・倫理性・手法の妥当性・実証性などの観点から相互に検討した上で、実証データの収集やプログラムの制作などに着手する。
観光産業専門演習 III	各研究室の研究分野に沿った卒業研究テーマを決定し、卒業研究のための資料収集、フィールド調査、論理の組み立て方、文章の書き方などについて学ぶ。

授業科目名	講義等の内容
国際文化専門演習Ⅳ	収集した資料の分析結果をまとめ、中間報告を行う。資料の不備や分析・考察の妥当性などを検討し、必要に応じて修正を加えた後、卒業研究の成果物(卒業論文／卒業制作)を完成させ、最終報告を行う。
経営情報専門演習Ⅳ	収集した資料・データの分析結果を、まとめ中間報告を行う。資料の不備や分析・考察の妥当性などを検討し、必要に応じて修正を加えた後、卒業研究の成果物(卒業論文)を完成させ、最終報告を行う。
観光産業専門演習Ⅳ	演習Ⅰ～Ⅲで習得した理論と実践能力に基づき、各研究室の研究分野に沿ったテーマの卒業研究を実施する。中間発表と最終発表を行い、研究成果を論文化する。学生が主体的に研究活動を行い、進捗状況の確認と結果に関する議論を授業時間に行う。

専攻専門教育科目 人文科学系科目

授業科目名	講義等の内容
漢文講読	漢文の基礎的な知識を身につけることを目的としている。基本的な漢文の訓読法を学ぶ。実際に中国古典の原典を訓読して、同時にその思想的意義を考える。＜講義形態＞前半は基本的な訓読法の実例を挙げて説明する。また同様に日本人が「訓読法」を発見して以来、中国の古典、又は外交文章である所謂「漢文」を理解することが如何に便利になったかを実際「白文」と較べることにより訓読の価値を確認したい。＜目標＞代表的な故事成語の典故を教材に訓読の訓練を重ねる。
書写・書道概論	書写は、正しく整えて書くという日常的機能性の上に立ち、書道は、美しく書くという芸術的表現性の上に立っている。しかも、書写における正しく整えて書くということは、美的な表現の一要素である。文字としての正しさも構成の上での端正さも書道の表現美の観点から重要なことであるという点で、書写と書道は深く関係し合っている。この書写と書道との関係に留意して、包括的な内容及び書道における「表現と鑑賞」に関する基本的な内容について講義する。
中級英語リスニング	イングリッシュ・コミュニケーションの教材よりさらに上のレベルの英語を聴く。徐々にコンテキストや視覚教材などに頼らないで、推測能力を伸ばし聴き取れるようにする。短い単位の英語音声はある程度理解できるレベルを目指す。音声の理解の他に、語彙力もリスニング活動を通して増やすことを目的とする。言語の機能に応じたシラバスに従って、簡易な日常会話や状況別の対話や説明を理解できることを目標とする。教室内での英語聴解の不足を補うために、大学付属の言語学習センターで個々のレベルに応じたリスニングを宿題として課す。
中級オーラルコミュニケーション	オーラルコミュニケーションは口頭による意思伝達である。従って「聞く、話す」という2技能に特に焦点を当てた英語によるコミュニケーション能力の向上をその目的とする。中級ではまず英語に対する苦手意識や抵抗感をできるだけ低くすることにより英語を話す自信をつけ、英語によるコミュニケーションの楽しさを味わいながらその目的達成を目指す。
中級英語講読	広範囲なトピックについて英語で読む機会を数多く提供し、幅広い語彙力、表現力を身につけさせる。又、関連する身近な教材で、その内容を広げ、深めていく。そのため、クラスでは読むだけでなく、それに伴う語彙力を日常英語表現から養成する活動や、その内容について英語や日本語で討論したり、自分の意見を書いたり発表させたりする機会を与え、受信の技能だけでなく発信の技能も養成する。読解の技法としては、準中級での Phrase Reading 、 Paragraph Reading に加え、 Scanning 、 Skimming の技術も身につける。
中級英作文	このクラスでは、受講生は様々な形式の英語のパラグラフを書く訓練を行い、最終的には説得力のある意見を含むパラグラフが書けるようにする。英文法力を向上、洗練させ、構成、つながり・まとめ、形式に注意しながらパラグラフを書く訓練を行う。最後に、受講生は何回かのクリエイティブ・ライティングのプロジェクトを通して、より自信を持ち、創造的に英語が書けるようになる。

授業科目名	講義等の内容
比較芸術論	<p>全ての文化は、その社会の構成員の全経験を表現する媒介として、芸術を使用している。この講義は場所や時空を越えて、様々な文化に存在する芸術に対する、受講生の感性を育むことを目的としている。授業では、各文化圏の相違点は勿論の事、異なる芸術様式の特徴やそれらの相互関係も検証している。さらに、それらの文化圏に於ける社会的、宗教的、さらには経済的な関わりが、いかにその時々や思想や芸術に影響を与えたかも考察していく。この授業は時代や地域構成で進行して行くのではなく、主題や概念で構成されて行く。</p>
比較宗教論	<p>世界に行われている宗教を比較することで、それぞれの特徴を明らかにする。比較する方法を解説するのではなく、ある問題について各々の宗教がどのように教説を述べているかを比較し、具体的な知識として提示するものである。ユダヤ教、イスラーム、ヒンドゥー教など日本人にはあまりなじみがないにもかかわらず、世界的には大きな影響力をもっている宗教については、とくに詳しくその特徴を解説する。</p>
言語と文学	<p>「ことば」を研究するということはどういうことか。本講義は、「ことば」のなかでも言語学と文学を研究対象とする教員によるオムニバス形式の講義である。この講義では、「ことば」を専門に勉強をしていくために必要と思われる知識や技法を身につける。またこうした研究の最新の動向を伝えるものともなる。「ことば」を学ぶ基礎的な訓練をしていくことを目指す。</p>
比較思想論	<p>人間の社会を理解するために思想の理解はきわめて重要である。人間生活をめぐるさまざまな問題について、古来人間はどのように考え、「思想」として体系化してきたのか。どのような考えがどのような背景から生れ、対立したのか。現代の我々が真理だと思っている概念についても、それが一つの思想にすぎないことなど、広範に説明してみたい。</p>
日本の歴史	<p>日本は、中国や朝鮮との交流を早くから持ち、これらの国から多くの知識や文化を学んできた。そのため、日本の歴史を理解する上では東アジアの国々との関係を知ることが重要である。本講義では、古文書・古記録の読解を通して、日本の政治史の展開を対外関係史との関連から考える。</p>
英米文化概論Ⅰ	<p>英国について言語、地理、気候、民族構成、歴史、文化、政治、経済、生活様式や宗教・信条などの概要を時代の変化に応じて文献購読、討論や発表を用いながら学習する。時代は、主に、17世紀からの初期の英国の歴史、18世紀、19世紀のビクトリア朝の歴史、20世紀からの現在までを焦点化する。さらに現在の社会や経済問題やEU、移民などの問題についても学習を発展させる。</p>
英米文化概論Ⅱ	<p>米国について言語、地理、気候、民族構成、歴史、文化、政治、経済、生活様式や宗教・信条などの概要を時代の変化に応じて文献購読、討論や発表を用いながら学習する。主に、植民地時代、独立革命、19世紀の南北戦争、ベトナム戦争、冷戦、現代の世界的経済危機、テロとの戦い、人権運動などのテーマを扱う。学生の関心がある米国のテーマについて、理解が深められるような授業形態を工夫する講義を行う。</p>

授業科目名	講義等の内容
異文化 コミュニケーション論	<p>学生は外国や文化を、英語を用いて学習する。学生は興味のある国を選択して国について事実、位置や地理、首都、人口、産物、言語、宗教、気候、貨幣、歴史、料理、旅行名所などを調べ、英語で口頭発表する。学生は発表を聞いて、評価用紙に記入し、発表のあとにコメントや質問などを交わす。その後外国人にインタビューをさせ、その結果を英語で発表させる。発表では、同様に評価用紙に記入する。</p>
沖縄地域文化論	<p>奄美から八重山までのいわゆる琉球文化圏には、たとえば古謡・三線民謡といった音楽文化、八月踊りやシヌグ・ウシデークといった民俗芸能文化、琉球語とも称される方言文化、宮古・八重山上布、ミンサー織といった染織文化などが根付いている。これらの民俗・文化事象について、現地実習沖縄コースやゼミフィールドワークなど、実際に現地を訪問して得た資料や写真画像を具体的事例として紹介しながら概説する。</p>
島嶼文化論	<p>地球上で我々人間は様々な場所で様々な生を営みながら、多様な社会や文化、歴史などを育んできている。本講義は我々が生み出している文化の多様性に着目し、その地域的特性を示しつつ、各典型例の比較対照を行うものである。特に、我々と密接に関わりのある生活文化に関する映像資料などをも駆使しながら、沖縄を足がかりに日本(本土)、韓国、中国、東南アジアなど、様々な地域に生きる人々の文化を紐解いていき、文化の多様性の認識と異文化への理解を深めていくのが講義の最大の目標である。</p>
観光文化論	<p>観光は今や地球規模の巨大現象であり、その経済的効果は莫大なものである。また、その影響力は新たな文化の創造という局面にまで及んでいる。本講義では、観光を生み出す仕方、観光によって作り出される文化、観光が当該社会に与える社会的・文化的影響など、観光と文化との関係を多角的な観点から考察する。</p>
比較映像文化論	<p>今日では、映画とビデオは最も強力な伝達手段と考えられている。映像は、演劇とデザイン、言語と文学、さらに、音楽等の他芸術領域をも連結する媒体でもある。世界の異なる国々の重要かつ代表的な映画を通して、多様な社会やその文化を紹介する。映画鑑賞後の授業での討論や分析を通して異文化を理解することがこの講義の内容である。</p>
言語学概論 I	<p>言語学の基本概念を概説し、研究対象として見る「ことば」に関する諸現象を考察する。まず、ヒトがなぜ言語を使えるのか、という根本的な問題を取り上げる第1言語獲得理論の基本概念を考察する。更に、日本語と英語の比較も考慮し、発声のメカニズムを探る音声学、イントネーション、アクセント、音調などを扱う音韻論を概説する。次に単語が成り立つ仕組みである語形成・形態論を取り上げる。最後に、英語、あるいは日本語を中心として世界の言語の構造を分析する研究分野である統語論の基本概念を解説する。</p>

授業科目名	講義等の内容
言語学概論Ⅱ	<p>言語学概論Ⅰに引き続き、人間だけが使いこなせる「ことば」を研究分野として考察していく。まず、意味論を概観する。意味とは語の意味、文章の意味の両方を指す。単語の意味の変遷の歴史とその法則、can、mayなどの法助動詞の意味と用法、現在、過去時制、完了相、進行相などを扱う。次に、言語運用の法則としての語用論を概説する。具体的には、言外の意味、含意、前提など、表面に現れない意味、あるいは意図などを扱う。次に、言語使用の具体的場面を扱う社会言語学を解説する。具体的には、使用場面、年齢、性別による言語使用の差異を考察する。最後に、第2言語習得論を概観する。</p>
日本語学概論	<p>日本語学概論というのは、日本語を研究するに当たって、その研究分野を概説するのが普通である。たとえば、音韻、文法、語彙、文字、方言と標準語、などの研究分野について説明するという形をとる。後期という短期間でそれらをさっと概説するという方法もあるが、それでは具体性に欠けて、よくわからないということも起こってくる。そこでこの講義では、前期の「日本の言語」の講義をさらに発展させる形で進めていき、名詞、代名詞、動詞、形容詞などの用法を新たな視点から捉え直しながら述べていく過程で、具体的に日本語学の研究分野についても理解せしめていく。そのほうが理解しやすい。</p>
南島歌謡	<p>南島歌謡とは、いわゆる琉球文化圏で生まれ伝承されてきたオモロをはじめとする呪詞・歌謡（おまじないや神歌・琉歌など）をさす。本講義では、奄美・沖縄・宮古・八重山諸島から、それぞれの地域に特徴的な呪詞・歌謡を取り上げて鑑賞する。なお、代表的南島歌謡の一つである琉歌に慣れ親しんでもらう為、講義前半に琉歌を紹介・概説し、講義後半では琉球カルタ（琉歌版百人一首）を実施する。</p>
日本言語史	<p>日本語の歴史を前期だけで見ていくのは無理である。前期後期を通しての開講が望ましいが、さしあたって前期だけの開講となれば、出発点となる上代(奈良時代)の言葉及び中古(平安時代)言葉を重視し、そこに力点を置いて講義する。基点をしっかりと理解した後で、順次、中世へと進んで、日本語の変化の流れが捉えられるようにしたい。中世まで見ればある程度現代語の成立は見えてくる。そして中央語の変化の流れの中で現代方言の性格もわかるように、わかりやすく論じていく。</p>
中南米の言語と文化	<p>中南米を理解するには、その自然環境のほか、先住民の歴史、言語、文化さらに同地域に深く浸透しているヨーロッパ文化、とりわけスペイン・ポルトガルの歴史・言語文化を知る必要がある。中南米には33の国があるが、本講義ではイベロアメリカ地域を中心に、国別では日本とかかわりの深い国々を優先して学習する。ちなみに海外でもっとも多くの日本人・日系人が在住し活躍しているのは南米大陸である。</p>

授業科目名	講義等の内容
英語音声学	この講義は主に、将来英語教師を志望する学生を対象としている。学生に単語レベルあるいは文レベルでアメリカ発音を練習させる。文節的な要素(子音や母音、さらに超文節的な要素(強勢、高さ、イントネーション、長さ)で、より英語でより自然な強勢やリズムを修得できるようにする。より自然な発音ができる様に、十分に調音音声学を学習する。講義の内容は、 minimal pair の比較、英語のピッチ、リズム、イントネーションによる意味や感情表現の違い、リエゾン、音声の弱化、音声の同化などを学習する。
英文法	英語で書かれた英文法のテキストのワークブックを使って英文法の要点を解説し、より自信を持って英語を使えるようになるために必要な英語力、文法力を養成する。授業では、指名により問題を解いていくことが中心となるが、なぜその答えになるのかを考え、英語の規則を「暗記する」のではなく、「理解する」ことを目指す。また、毎回の授業の最後にコメントシートを配布し、受講生は理解不足な点を記入する。それを次回の授業で取り上げ、理解できない点が残らないよう配慮する。
イギリス文学	このクラスでは、中世、ルネッサンス期、ロマン主義、近代という各時代におけるイギリス文学の代表的な作品を読む。更に、叙事詩、叙情詩、演劇、小説のような英語で書かれる文学のジャンルについても学ぶ。最後に、英語でのクリエイティブ・ライティングの基本を学び、自分自身の文学作品を英語で書くことも試みる。
沖縄の文学	本講義は、沖縄で書かれた文学・沖縄を描いた文学について学ぶものである。明治以降沖縄県出身作家によって書かれた作品及び日本の作家によって作品化された沖縄像について、紹介しながら概説し鑑賞する。その際、作品世界の背景や、作品が発表された同時代社会の動きに目を配ることに重きを置く。
準高等英語リスニング	中級のリスニングの講義を修了した学生が受講する。リスニング活動を通して1分間に聴解できる語数(WPM)を増やし、視覚的な支援などに頼らず理解できる様にする。背景知識を利用し、自然な速度で話されているニュースや会議、講義等を note-taking ができるようにする。1年次と同様に学生のレベルに応じた graded-listening を行う。教室内での英語聴解の不足を補うために、大学付属の言語学習センターで個々のレベルに応じたリスニングを宿題として課す。
準高等オーラルコミュニケーション	中級同様、「聞く、話す」の2技能に特に焦点を当てた英語によるコミュニケーション能力の向上をその目的とする。英語によるコミュニケーションの楽しさを共有しつつ、準高等においては中級よりも話す内容をレベルアップさせると共により正確な情報伝達を目指す。例えば英語によるプレゼンテーションなどを導入し発信力を磨く。
準高等英語講読	授業を前半と後半に分け、前半は日本語とは異なる「英語の構造」を理解し、英語の読み方を学ぶ。内容を把握しつつ、速読する訓練を行う。英字新聞、雑誌の記事などを教材としてとりあげる。後半は研究対象としての英語、あるいは言語、言語学に関するテキストを読み、読解力を養成すると同時に、言語に関する興味、関心を養い、言語現象に対する理解を深める。

授業科目名	講義等の内容
準高等英作文	このクラスでは、受講生は記述的・説明的、叙述的エッセイを含む様々なジャンルのエッセイを書く訓練を行う。また、文単位での英文法、基本的な修辭的技法、エッセイの構成法に関する技術を向上させる。最後に、学期全体に及ぶクリエイティブ・ライティングのプロジェクトを通して、英語における滑らかさ・流暢さを身につけ、自信を深める。
高等英語リスニング	日常生活で用いられている英語をナチュラルスピードで理解する。映画等の視覚的な補助を用い、反復して視聴することにより、理解を促進する。所用時間の短い談話やニュース、説明の理解から、所用時間の長い談話の理解ができるようにする。教室内での英語聴解の不足を補うために、大学付属の言語学習センターで個々のレベルに応じたリスニングを宿題として課す。
高等オーラルコミュニケーション	準高等オーラルコミュニケーションが前提科目となる。その目的は中級、準高等同様「聞く、話す」の2技能に特に焦点を当てた英語によるコミュニケーション能力の向上を目的とする。しかしながら高等においては、準高等におけるプレゼンテーションなどの単なる個人の情報伝達にとどまらず、ディスカッションなどグループ内における意見発表などによりさらに高度で柔軟性のある「聞く、話す」の技能向上を目指す。
高等英語講読	準高等英語講読に続き、授業を前半と後半に分け、前半は英語の読み方を学ぶ。英語の速読力を身に付けることを目指し、新聞あるいは雑誌などの記事、エッセイ、を読み、内容を把握する訓練を行うと同時に、語彙力も養成する。後半は研究対象としての英語、あるいは言語全般を扱うテキストを読み、読解力を養成すると同時に、言語に関する興味を養い、言語現象に対する理解を深める。
高等英作文	このクラスでは、「準高等英作文」で身につけたエッセイ・ライティングの能力を更に向上させる。学期末までには、主張、論拠、根拠をもとに議論するための英語の書き方を学ぶ。更に、上級レベルのクラスでリサーチ・ペーパーを書くための準備も行う。受講生は英文法力を更に磨き、更なる自信・説得力を持って英語を書く方法を学ぶ。
観光実用英語 I	観光業界の現場で必要とされる英語運用能力について教授し指導する。講義では主として聴解力と英語による意思伝達能力を養成することを目標に掲げて指導を行う。受講生には、あらかじめ各単元で扱う必須の語彙や表現に関して状況に即した事例を示して理解を深めさせ、それを足がかりにして聴解力と意思伝達能力の向上を促す応用練習を継続して課す。
観光実用英語 II	先行する観光実用英語 I と教授内容において連続性を共有する。但し、本講義の各単元で扱う語彙や表現、またそれらに連動する種々の応用練習の項目は、観光実用英語 I で扱う内容と重複するものではない。講義を進めるにあたっては、随時一口メモのコーナーを設け、英語と日本語の本来の相違点に言及し、受講生に注意を喚起させる。この試みは先行する観光実用英語 I でも同様に実施する。

授業科目名	講義等の内容
ビジュアル コミュニケーション入門	歴史上使用されてきた視覚伝達手段の様々な媒介を紹介・分析し、そして、私たちの生活に密着した身の回りの物から、ビジュアルコミュニケーションの具体的な例を探し出し、サイン、シンボル、ロゴ、ビルボード、ポスター、ミウラル、そしてテレビのコマーシャルに到るまでの視覚的伝達手段を学習していく。さらに、受講生は、バランス、リズム、ハーモニー、そして反復というような様々な視覚的イメージの基礎技法も実習を通して習得していく、ニューメディアの学校教育現場における実用化の可能性についても探求していく。
沖縄の社会	本講義は、琉球・沖縄社会の成立およびその構成要素について理解を深めること、また県内各種試験やご当地検定等で沖縄に関する基本的事項について答えられる力を身につけることを目的とする。講義では琉球・沖縄における地域社会の成立について時代毎に論じ、琉球・沖縄社会を理解する上で重要な琉球方言やグスク(城)、ウタキ(拝所)、オモロ(神歌)、エイサー、組踊、沖縄ソバなどといった文化要素についても概説する。
アジアの宗教	東南アジアに行なわれている宗教について、歴史、教義、経典、宗教生活、国家との関係など、多面的に解説する。宗教は世界中のほとんどの人間にとって当然の存在であり、日々の生活の指針として機能している。宗教について基本的なことを認識しないで外国を理解することは不可能である。本講座では基本的な知識を確実に獲得することを最大の目的として講義していきたい。
国際文化特別講義Ⅰ	国際文化専攻に関わる専門研究領域の研究者を学内外から招聘し、当該学術分野における最新の研究事例や社会動向を紹介する。なお開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。
国際文化特別講義Ⅱ	国際文化専攻に関わる専門研究領域の研究者や実務家を学内外から招聘し、自国の文化や異文化への理解を深めるための講義を提供する。なお、開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。
語学教育特別講義Ⅰ	語学教育専攻に関わる専門研究領域の研究者を学内外から招聘し、当該学術分野における最新の研究事例や社会動向を紹介する。なお開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。
語学教育特別講義Ⅱ	語学教育専攻に関わる専門研究領域の実務家を学内外から招聘し、当該学術分野における最新の研究事例や社会動向を紹介する。なお開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。
日本史史料講読	史料とは歴史研究の素材となるもののことで、文書、遺物、伝承、建築など様々なものを含む。この講義では、それら史料のうち、古文書、古記録(日記など)、絵図などを主にとりあげる。史料の読解を通して、歴史を暗記するのではなく、歴史を考える楽しみを知ってもらいたい。なお、史料の読解に必要な漢文の読み方についても、若干の解説を行う。

授業科目名	講義等の内容
観光実用韓国語	この授業は、観光産業のさまざまな場面でホストとして観光旅行者と円滑にコミュニケーションを図ることができる柔軟な対応能力を養うことに主眼をおく。授業では、「ホテル」、「レストラン」、「旅行会社」、「レンタカーショップ」、「免税店や土産物店」などの接客場面を想定し、そのような場で行われる応対に関連する語彙や表現法などを学習し、自らも情報を発信できる能力を高めていく。本授業では、それまでに培ってきた韓国語のスキルを十分に発揮することが望まれる。
観光実用中国語	この授業は、観光産業のさまざまな場面でホストとして観光旅行者と円滑にコミュニケーションを図ることができる柔軟な対応能力を養うことに主眼をおく。授業では、「ホテル」、「レストラン」、「旅行会社」、「レンタカーショップ」、「免税店や土産物店」などの接客場面を想定し、そのような場で行われる応対に関連する語彙や表現法などを学習し、自らも情報を発信できる能力を高めていく。本授業では、それまでに培ってきた中国語のスキルを十分に発揮することが望まれる。
中南米の歴史	33カ国あるラテンアメリカ諸国は、500年もの間様々な文化が出会い、そこから固有の文明が生まれてきた。コロンブス以前と以後に大きく時代を分け、コロンブス以前のメソアメリカ地域のアステカ、マヤなどの古代文明や南米のインカ文明にまず焦点を当てる。続いてコロンブス以後の植民地時代から19世の独立、共和国時代を経て現代へ至るまでを通史的に考察する。また、新大陸到達から形成されてきたラテンアメリカと称される地域の歴史的発展過程について授業を進める。
日本古典文学史	上代から近世までの文学の展開や変化、ジャンルの特徴を捉える。また、背景となる歴史の流れ、社会や文化の構造を視野に入れながら、各時代の代表的作品に触れる。文学作品を通じて、その時代・時期に生きた人びとの思想・精神文化を読み解く。
日本近代文学史	日本の社会構造が「近代」に移り変わって以降の文学の変遷をみる。いわゆる幕末から現代に至る150年を対象とし、背景となる歴史の流れや、日本社会・文化の構造まで視野に入れながら、代表的な作家を例示しつつ講義を行う。文学作品を通じて、その時代・時期に生きた人々の思想・精神文化を読み解いていくことを目的とする。
日本古典文学概論	"男と女"、あるいは"笑い"をキーワードに中世文学における随筆や説話等の代表的作品を鑑賞する。その際、前後の時代、すなわち中古と近世における関連作品も取り上げ、それぞれのジャンルの諸相をおさえつつ、中世文学の特質の一端を読み取る。
日本近代文学概論	明治から平成までにわたって日本近現代文学における代表的な作品を鑑賞し、その後、対象となる作品、作家について発表及び意見交換を行ってもらおう。「小説」を「研究」することとは、「小説」がどのような背景をもって書かれたかを探ることである。また、そのアプローチは隣接する他学問領域の知識を必要とする。その大まかな作業の流れを知る講義となる。

授業科目名	講義等の内容
日本の社会	<p>日本社会の特徴について考える際、「イエ」に注目することは重要である。この講義では、日本のイエ（家）制度の痕跡を追いつつ、日本社会の構造の一面を論じる。制度として「イエ」はなくなったものの、意識においては今日尚根強く機能している。イエ制度を持たなかった沖縄社会との比較を通じて、今日の様々な社会現象の根幹について論じていく。</p>
日本の宗教	<p>日本に現在行われている宗教・信仰について概観する。それぞれの宗教がどのように生じて、どのような内容の下、どのようなものを生み出してきたのか、またそれぞれがどのように関連しあっているのかについて、とくに民俗学的・宗教社会学的立場から解説する。</p>
移民と異文化	<p>現在、在外日系人は約 250 万人、そのうち 30 万人は沖縄県系人である。日本移民が移民国において異文化と接触しながら生活してきた経緯を説明し、移民と日本・沖縄とのかかわりについて理解を深める。移民を送り出した日本社会の歴史的背景、移民と異文化理解に関する用語、基礎的概念を説明し、現在のグローバリゼーションの中で日本・沖縄が果たす役割の意義を理解する。</p>
中南米の社会	<p>ラテンアメリカ地域は、一般に思われているような人種平等の世界ではなく、かといって人種抗争、民族紛争が激しく顕在化している地域でもない。そこで、この地域の住民の価値観や行動原理が、経済や政治の発展を規定する大きな要因であることは言うまでもない。また、政治生活や経済生活を通じて形成されてきた社会体系を捉えることも重要な課題である。中南米地域の人種関係や民族関係の特徴から中南米地域社会に見られる様々な社会組織(共同体、集団、群集)の定義、構造や機能を概観し、その特性について考究する。</p>
地域文化演習	<p>地域文化演習は、3年の8月・9月に約3週間実施される「現地実習」(4単位)の事前授業として位置付けられる科目である。従って、当該地域にある国々の地域研究や、職業分野に関する基礎的知識を学ぶ。加えて、研修旅行でのリスク・マネジメントや国際人の資質として必要なテーブルマナーなども取り入れて講義する。ただし、コースによって演習内容は異なり、一泊二日研修を行うコースもある。</p>
現地実習	<p>3年次夏季休暇の8月・9月を利用して、約3週間の日程で沖縄コース、日本コース、アジアコース(東アジアコース、東南アジアコース)、中南米コース(ポルトガル語圏コース、スペイン語圏コース)、英語圏コース、教育支援コース、国際協力コースにわかれ、それぞれのプログラムによる集中講義などを含めた実習を行う。各地域や職業分野について座学だけでは学ぶことができない実体験を通じての理解を深く身につけることができる。国内・国外の各コースで得られる新たな刺激と学びに加えて、中南米やアジアなどでは沖縄県人会との文化交流会が用意されていることも本研修の特色である。</p>
アジアの言語	<p>アジア諸国と日本は、数千年間前から現在に至るまで、広く関係を持ち続けている。アジアに行なわれている言語について、とくに東南アジアを中心にその類型や実態、社会での意味や国家との関係などを、広範に解説する。言語は文化事象の基礎であり、民族意識の根源でもある。外国の諸地域理解には避けてとおれない事象であるので、ぜひ正確な理解をのぞみたい。</p>

授業科目名	講義等の内容
英語学概論	<p>研究対象としてとらえる英語という言葉を扱う研究分野である「英語学」に関する概説書を読み、様々な英語に関する現象に興味を持ち、その現象を分析する能力を養う。具体的には、まずブリテン島の歴史から始まる英語の歴史を概観し、日本語と比較した上での英語の音声、あるいは音韻に関する音声学・音韻論を概説する。次に英単語の成り立ちに関する規則を扱う語形成・形態論を取り上げる。次に、英語学の中核をなす、英語の構造についての規則を扱う統語論を詳述する。次に単語、あるいは文章の意味、法助動詞の意味用法などを扱う意味論を概説する。その後、1文だけでなく、談話をも含めた状況、あるいは話者の意図、含意、表面に現れない意味を分析する語用論を取り上げる。</p>
アメリカ文学	<p>ネイティブ・アメリカンの伝統的文学から現代の文学の中で、アメリカの伝統から生じる様々なスタイルの文学作品を読み、それらについて自分の意見を書く。特に、今までと異なる、それ故に相争う観点からアメリカ人としてのアイデンティティを確立することを試みた作家に焦点を当てる。講義、クラス内のディスカッションでは、アメリカ文学、アメリカ英語にも触れる。</p>
アジアの文学	<p>アジア地域の文学の発展について、主に東アジア地域に焦点を当て、近代から現代にいたるまでの文学史を紹介する。作家や文学作品だけでなく、各時代の文学潮流の形成に影響を及ぼした事件や時代的背景など、多角的方面から東アジアの文学について学ぶ。</p>
アジアの歴史	<p>先史時代から 20 世紀までのアジアについて、特に東南アジアを中心に歴史叙述をする。単なる事実の羅列ではなく、なぜ、その事件が起こったのかという歴史の内的な動きについて理解を図る。また、一つの事件の結果、どのような力がその後の世界に働いて、現在に至るまでの歴史を形成してきたのかという点にも力を入れて講義をする。</p>
アジアの文化	<p>アジアの文化について、特に日本を含めた東アジア域内の文化の交流、伝播、発展の諸相について概観する。食文化、服飾文化、家族文化、移民文化などのテーマから、日本、中国、台湾、朝鮮半島が持つ文化の違いだけでなく、歴史的にも相互に影響を与えあい融合してきたことからくる共通点も知ることで、文化という側面からわれわれが有するアジア的なつながりについて学んでいく。</p>
通訳技法	<p>通訳者養成において使用されるシャドーイング、ディクテーション、クイックリスポンス、パラフレージング、サマライゼーション、リテンション、サイトトランスレーションなどの技術を学び、それらの技術を駆使して英語力を養成する。その英語力を使い、さらに英語から日本語、日本語から英語への逐次通訳や同時通訳の練習を行う。上級者レベルの英語力のさらなる向上を図るとともに、ひいては日本語力の向上にも役立つ授業とする。授業は、それぞれの通訳技術に適した教材を使用し、グループ活動、ペア活動、個人活動などの形態で進める。簡単な英語のニュースを逐次通訳したり、クラスメートのスピーチを同時通訳するなどの活動を行う。</p>

授業科目名	講義等の内容
外書講読	<p>外国語で記された文献等を用いて、各専門領域における理論や事例等を学ぶ。併せて、専門用語や言い回し等を学びながら、各専門領域の理解を深める。本講義は、読解力の向上よりも、各専門領域に関する知識の拡充並びに理解を深めることを目指すものである。また、本講義の受講に関しては、外国語で各専門領域に関する書物等を精読することになるため、予習並びに復習が不可欠である。</p>
小学校英語教育教授論	<p>小学校での英語教授の基礎となる教授法や、児童発達心理学、カリキュラムなどを学習する。教授法では児童への英語学習に有効な理解能力中心のTPR等の教授法、コミュニケーションを中心とした教授法、オーディオディンガルを改良した指導法等を学ぶ。児童心理学では、ピアジェを始め、代表的な児童発達心理学を学び、年齢に応じた有効な指導法を学ぶ。さらに児童の発達段階に応じた有効な指導方法と指導内容を盛り込んだカリキュラム作成の基本を学ぶ。具体的な指導技術や教材作りなどは「小学校英語教育実践研究」の中で、学習する。</p>
職業指導Ⅰ	<p>本講義では、生徒への職業指導を行うにあたって役立つ知識と実践技術の修得を目的とする。生徒自身が「進路を想像する力」を発揮できるような教師の支援について学ぶとともに、キャリア教育についても考えていく。</p>
職業指導Ⅱ	<p>「職業指導Ⅰ」で学ぶ職業指導の理論、社会の動きの捉え方、実践技術(指導における教師の姿勢)、そしてキャリア教育のあり方について整理しつつ、学校現場で求められる職業指導、キャリア教育を自ら考え、体系的に組み立て、指導内容や方法をカリキュラムに反映させ、実行可能性について考えていく。</p>
日本語教授法	<p>日本語教授法についてのおおまかな知識を知り、実践する。前半では、教授法についての基礎知識(日本語教師の責任範囲、配慮すべきこと、コースデザインの方法等)を学ぶ。また、効果的に教えるための方法としてさまざまな教授法について、その変遷も含めて学ぶ。後半では、市販されている日本語教科書、日本語教育に関する副教材やウェブサイトについての知識を得、学習者に合わせてより適切な教材を選択できるようになる力を養う。</p>
ディベート	<p>ディベートとは何かという定義から始まり、その用語や表現を学び、論題を決定し、リサーチを行い、スピーチ原稿を仕上げ、最終的に英語によるディベートの試合を行う。目標はディベートを実際に経験することにより、そのプロセスにおいて、論題決定の際には社会問題に対する意識を深め、リサーチでは英語のリーディング力や情報収集能力をつけ、原稿書きでは論理力やライティング力、ディベート本番ではリスニング力やスピーキング力と、様々な力を養成することにある。つまり、ディベートによって、上級者レベルの英語力を総合的に向上させることにある。</p>
現代日本語論	<p>言葉の基本的な働きとはなにか、言葉の特性とはどういうものなのか、コミュニケーションの構造とはどうなっているかなど、言葉に関する基本的なことについて学ぶ。それを土台に、日本語の表現上の特色及びその表現に深くかかわる助詞、とりわけ重要な働きをする助詞「が」「は」「の」の表現などについて学ぶ。この講義を通して日本語の表現構造について深く理解せしめたい。</p>

授業科目名	講義等の内容
日本近代文学論	<p>明治以降、現在に至るまでの日本近・現代文学に描かれた「救い」について捉え直す。作家が宗教思想をどのように受容しているのか、またその思想をどのように作品化しているのかを把握する。そのために宗教を描く特徴を有するいくつかの小説作品を読むことになる。なかでも本講義ではその中心に遠藤周作の代表作『沈黙』と『深い河』を据え、この二作品をじっくり読むことで、文学における「救い」の変遷を見る。</p>
日本古典文学論	<p>『平家物語』全十三巻を一巻ごとに読み解く。『平家物語』は「治承・寿永の争乱」いわゆる源平合戦を主な舞台として、平家の滅びを主題としながら、さまざまな物語が織り込まれている。構想、人物形象、表現、諸本の異同、時代背景(政治・思想)などの問題に関わる先行研究の成果をできるだけ数多く取り上げながら、各巻の内容を精読する。また、古典文学研究に必要な基礎的知識の習得を図る。</p>
中南米の民俗	<p>民俗または民衆文化は、中南米地域を理解する上で重要なテーマである。テレビドラマやプロレスなど、一見すると研究するに値しないと思われるような日常の中の社会事象、文化事象の中に表出する当該地域の歴史、政治、経済、宗教、思想、アイデンティティなど、その背景を読み解いていく。</p>
英語リサーチ・ライティング	<p>本講義は英語による研究論文執筆の方法や一般的な様式について話し合う。学生は研究の題目を提案し、研究を実施し、5～7ページの研究論文を書く。英語での論述の過程について学習し、研究における引用や引用の要約の効果的な方法を学習する。このコースは、学生が卒業論文を英語で執筆し、卒業するための事前の講義である。</p>
日本語教育実践演習	<p>前置授業である「日本語教授法」で学んだ「日本語教育」に関する基本的な知識を土台にしなが、種々の日本語教授法と指導法について具体的に論じる。初級と中・上級、さらには「会話・聴解・読解・作文」のいわゆる4技能の指導に関する理論と実践が主な内容になる。また、カリキュラム構築とコース・デザインの方法についても論じる。</p>

専攻専門教育科目 社会科学系科目

授業科目名	講義等の内容
民法と市民生活	<p>私たちが普段何気なく過ごしている日常生活において存在する民法に関わる諸事象(商品の売買・アパートの賃貸借等の契約関係、家族制度、不法行為等)を主たる素材としながら、民法のしくみや基本原理(例えば、法的人格(権利能力)平等の原則、私的自治の原則、契約自由の原則、過失責任の原則等)について学習する。特に“法”を意識しているわけでもない普段の日常生活において、何気なく民法が果たしている重要な役割をなるべく分かり易くお話しして、民法に対する関心や市民としての法的責任感を涵養していく。</p>
簿記原理	<p>複式簿記は会社経理に携わる人々はもちろん、経営者、職業会計人、企業アナリストに必須の知識であり、また今日の情報化社会に生きる我々の素養とさえなっている。このような社会的要請に応えるために、複式簿記の基本的知識と技能を習得することを目的とする。具体的には、日々の取引の仕訳・元帳への転記から決算処理、財務諸表作成までの一連の流れを学習する。</p>
上級簿記	<p>多様な利害関係者を有し、複雑な取引が多くみられる株式会社を対象とした複式簿記の知識と技法を習得することを目的とする。株式会社の仕組みや取引について簿記を通して理解するとともに、株式会社が公表する財務諸表を理解し、将来、株主、債権者、経営者などの立場で企業分析を行う際の基礎知識を養うことを目標とする。</p>
経営学総論	<p>目まぐるしく変化する今日の経済・社会と、企業の活動や私たちの日常生活との関係は、切っても切れない関係にある。ゆえに、企業の活動を理解することは、私たちの生活や社会、そして経済を理解することにつながる。企業という特定の領域を対象とする経営学の基礎知識を十分理解することを目的に進めていく。</p>
ミクロ経済学	<p>ミクロ経済学は、家計や企業が有限な資源や所得をどのように利用すれば、利益や幸福感を最大化できるかを学ぶ意思決定理論である。企業間では消費者の所得を得ようと激しい競争が行われているが、この授業で企業が競争に勝つための戦略の基礎を学ぶ。</p>
マクロ経済学	<p>マクロ経済学は、一国経済および一国経済と世界経済という枠組みで、国内総生産(GDP)がどのように決定されるのか、労働、資本などが過不足なく用いられる仕組み、およびマクロ経済における消費や投資の役割、政府の役割、外国貿易の役割、経済成長の意味、経済変動を学ぶ。</p>
観光産業特別講義Ⅰ	<p>観光産業専攻に関わる専門研究領域の研究者や実務家を学内外から招聘し、当該学術分野における最新の研究事例や社会動向を紹介する。なお開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。</p>
観光産業特別講義Ⅱ	<p>観光産業専攻に関わる専門研究領域の研究者や実務家を学内外から招聘し、当該学術分野における最新の研究事例や社会動向を紹介する。なお開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。</p>

授業科目名	講義等の内容
観光学総論	<p>観光学の分野は、経済・経営・社会・歴史・自然・環境・文化・交通・都市計画・健康など様々な分野から構成される非常に範囲の広い学際的な学問分野である。本講義は、観光学概論の発展科目として観光学の基礎についての理解を深めることを目的とする。本講義では、まず、観光学の体系、方法論を総論的に学ぶ。その後、各論として観光産業専攻教員の研究分野をもとに、観光へのアプローチについてオムニバス講義の形態で提供する。</p>
地誌学	<p>地誌学とは地理学の一分野であり、地域を自然、歴史、文化、生活などの観点から「総合的」に把握・記述し、各事象の複雑な関係性の中から地域特性を理解する学問である。この講義では日本の自然的、人文・社会的諸特性を概観したあと、各地域の自然や歴史、文化、風土、観光を地図や図表、写真等を多用し説明する。</p>
レジャー・レクリエーション論	<p>現代社会においてレジャー・レクリエーション活動は、国民生活の重要な課題になってきている。本授業では、レジャー・レクリエーションの重要性について理解し、労働とレジャー、観光との関係について検討する。また、レジャー・レクリエーションの成立の背景と現代的意義、機能について習得する。さらに、国内外のレジャー・レクリエーション産業と活動の現状を紹介し、レジャー・レクリエーションの未来と課題について具体的に考察する。</p>
観光関連法規	<p>観光産業は様々な業種・業態から成る複合体であり、その範囲は広く、関連する法律や規則等も多岐に渡る。本講義においては、観光の分野における代表的な法律・規則・条令等について考える。併せて、規範・規制的な側面を有する法律と計画性を有する法律の差異や法律と観光振興の関係について考えると共に、法律や規則の果たす役割について学ぶ。</p>
会社法	<p>本講義では、会社法の基本的構造、基本判例及び学説等の基本的知識を確実に理解することを一義的な目的とし、加えて最先端のトピックスについても適宜とりあげつつ、実践的な思考力を涵養する。基本的に教科書・レジュメに沿って基本的知識をおさえつつ、判例集掲載のケースの検討・考察を行うことによって会社法の全体構造の修得を図る。また会社法全体の基礎的な知識を修得した後、実践的な問題についても取り組み、さらなる思考力の涵養も図りたい。会社法は初学者にとって難解と感じられる傾向がある。しかし、基本的知識をいったん修得すれば、その誤解も解ける。会社法のおもしろさを実感してほしい。</p>
行政法	<p>現代福祉国家において、市民生活に対する国家の行政的介入が増大している今日では、多種多様な行政活動に関する法分野の基礎知識を習得する重要性はますます高まっている。本科目では、主として沖縄県庁や市役所・町村役場における身近な行政活動を素材としながら、行政「組織」法・行政「作用」法・行政「救済」法という、行政法に関する基礎知識をなるべく分かり易くお話しする予定である。また、規制緩和、公務員制度改革、郵政民営化、市町村合併等に見られる近年のわが国の行財政改革等にも可能な限り触れていきたい。</p>

授業科目名	講義等の内容
西欧経済史	15～16 世紀以降現代にいたる欧米諸国の経済発展についてみていく。その場合、なぜある国はいち早く近代産業社会への離陸をなしとげ、またある国はそれに遅れをとったのかについて考える。本講義では、特に「富の源泉」、イノベーション、近代化、産業化をキーワードに欧米諸国の経済を比較史的に検討する。
財政学	財政は、財産のない政府の貨幣活動である。中央政府と地方政府は、集めた税金＝貨幣を用い、国民の生活に不可欠な道路、橋、港湾などの公共施設の建設から、教育、医療や社会保障などの福祉運営を行っている。財政学は、政府の貨幣活動を、財政の仕組み、税の意味、税の徴収と経済への影響などを学ぶ。
沖縄観光	本講義は、沖縄観光の現状と問題点、課題について、マーケットの現状、観光消費が沖縄経済に波及する効果、沖縄観光の受入体制の推移、沖縄観光を取り巻く全国的な旅行市場の動向、観光地の動向等の解説を加えながら、その把握手法について講義する。
観光行動論	力動的な人間行動全般の中で観光という行動のメカニズムを理解する。特に、本講義では人間行動としての観光行動を行動科学的側面から構造を把握することを目的としている。内容としては、観光者心理、観光者の消費行動、観光者の空間体験や異文化体験、交通行動、情報行動等である。また関連する諸学問分野としては心理学・統計学・消費者行動論等の基礎知識を理解する。
流通論	生産から消費までの流通過程における基本的原理を理解する事を目的とする。生産と消費の懸隔として、空間的、時間的懸隔があげられる。この懸隔にどのように流通が関わり、解消しているのかを具体的事例をあげながら、考察する。とくに、学生の関心の高い小売業を中心に講義をすすめる。
観光開発論 I	本講義では、国内的・国際的に汎用性のある観光開発の概念や仕組みを総論的に学ぶ。観光開発の目的を社会的更生の最大化とし、観光開発が経済社会や環境、文化に与える影響をはじめとする開発と地域の関係に重点を置き、望ましい開発の理念と手法の説明を中心として講義を進める。「観光開発Ⅱ」および「観光政策論」において扱う事例や観光開発の計画評価に必要な方法論を理解するための基礎とする。
マーケティング論	マーケティングとは企業や非営利組織がおこなう対市場活動である。まずマーケティングの基本原理やマッカーシーの 4P(Product、 Price、 Place、 Promotion)理論を説明し、企業が我々消費者に対しおこなっている活動を理解する。さらに、サービス経済化やグローバル化など、現代企業が抱える独自の問題にも焦点をあてていく。
観光調査法	近年、観光調査やホスピタリティ研究の分野において、統計学的データ解析は行動や構造を把握するために重要なツールになってきた。そこで本講義は、観光関連データの解析のために必要な諸分析技法の基礎知識を理解する。特に、統計上の理論よりも、むしろ利用方法に慣れることを目的とする。

授業科目名	講義等の内容
観光交通論	本講義は2年次以上の学生を対象として、観光交通の理論および観光地における交通の役割を体系的に学ぶ。観光および交通地理や交通手段の発達が観光地に与える影響、観光客と地域住民の領域が重複する観光地における交通の計画づくりなどについて学ぶことで、観光交通に関する理解を深める。
中小企業論	わが国の企業数の大半を占めるのが、中小企業である。この中小企業は多くの人々にとって働く場であり、中小規模という特性から人々の自己実現の場（起業）でもある。この起業の場としての注目度は、いわゆるベンチャー起業家らの活躍によりかなり高くなっている一方で、中小企業が抱える問題はかなり深刻なものとなっている。目まぐるしく進化するICT技術やグローバルに展開される企業競争によって、競争激化の様相となっている。本講義では、この中小企業のこれまでと今後について、理論的かつ様々な角度から実態を把握することで、理解を深めていく。
原価計算	簿記原理（商業簿記）を履修した学生を対象に、その応用として製造業において必須となった工業簿記及び原価計算の知識と技法を修得することを目的とする。
経営組織論	組織とは、ある目的を持った人々の協働体系であるが、現代の経済社会において重要な役割を果たすその組織について、存在意義や構造、特有の問題などについて学ぶ。なかでも特に企業組織の構造と特性、そして組織内部の過程（組織と構成員との関係や意思決定の流れ）、さらに組織と経営環境や経営戦略とのかかわりについて、いくつかの組織理論を事例研究と照らし合わせながら実態的に学んでいく。
経営戦略論	企業において競合他社との競争は、自らの企業の存続・成長・発展を左右するほど重要なものであると考えられる。そこで、企業における競争の戦略、成長の戦略とは何か、また戦略を考えていく上で企業が考えなければならない環境とは何か、などについて講義を行う。
会計学原理	簿記原理において日々の取引の会計処理から財務諸表の作成方法までを修得した学生に対して、財務諸表利用者、すなわち株主・債権者・経営者、そして就職先を探す学生の立場から財務諸表の読み方を学ぶ。また、企業活動のグローバル化を背景に、会計基準がグローバル化する現状も取り上げる。
イベント事業論	観光客誘客の手段として、イベントが果たす役割について学ぶ。併せて、イベントを開催するためのコンセプトの明確化、イベントの計画、準備・実施・運営方法について学ぶと共にイベントのもたらす影響について考える。本講義では知識を学ぶだけではなく、実際にイベントに参加し、対象として観察・分析することが要求される。

授業科目名	講義等の内容
エコツーリズム I	エコツーリズム(Ecotourism)は Ecology(生態学)と Tourism(観光)を組み合わせた造語で、1980 年代ごろから使われ始めた比較的新しい観光の一形態を示す概念である。これが起こってきた背景には、環境破壊への批判と地球環境問題への関心の高まりがある。エコツーリズムは、一般的には「訪問地の自然・文化をより深く知り・学び、自然・文化の保護・保全と地域の振興に寄与する観光形態」と理解される体験型の観光を示す概念である。本講義では、エコツーリズムの基本的な概念、例えば、地域住民や行政、事業者・観光客の関わり方及び持続可能性等や経緯、地域の取組み等に対しての理解を深めることを目的として行われる。
国際機構論	国際連合は第二次大戦後、再び世界大戦を起こさない目的で創設された国際機構である。グローバル時代の今日、国際機構の役割について学ぶ意義は大きい。国際機構が誕生した歴史的環境、組織の内容と機能、課題と改革案などについて学ぶ。特に日本の安全保障理事会常任理事国入りなど国際社会における日本の役割も取り扱う。
ホスピタリティ概論	わが国でもさまざまな方面で広がりを見せているホスピタリティについて、その基本概念を学ぶ。歴史、サービスとの違い、三大宗教との関連などについて考察を加えつつ、なぜこれほどまでにホスピタリティという言葉が好まれ多く用いられるようになったのか、その理由も解明する。さらに発展させて、ホスピタブルな人材の育成についても論じる。
観光事業論	2 年次生を対象として、観光事業の考え方を体系的に学ぶ。観光学概論によって、観光の基礎的な知識を習得した学生に対して、これからの専門的な各分野への橋渡しの講義として、観光学を体系的に整理し、それぞれの専門的分野の概観を詳述する。受講生が観光に関する専門的講義に慣れるとともに、これから学ぶ観光学の全体像を把握し、観光開発や観光政策の基礎を理解することなどが講義の目的となる。
国際経済論	国際経済学は、2 国間で輸出入が行われる理由、自由貿易のメリット、為替レートや国際通貨が輸出入に与える影響、国際的な貿易政策の現状と課題を歴史、制度、理論と実際から学び、私たちの生活と国際社会が貿易を通じてどのようなつながりがあるのかを経済的視点から理解する科目である。
金融論	金融論は、経済の血液と言われる貨幣の流れの仕組みを学ぶ。金融論では、貨幣と経済の関係、物々交換と貨幣経済の比較、貨幣と黒字・赤字主体、貨幣と金融機関、金融機関の役割と金融市場、金融市場と金融商品、貨幣の動きと実体経済の動き、貨幣の発行の仕組みと影響、中央銀行の役割、金融とインフレ・デフレ、金融政策、金融の新しい動きを学ぶ。
ベンチャービジネス	経済の活性化、経済発展をもたらす原動力としてベンチャービジネスの創造とその鍵となる起業家活動に、大きな期待がよせられている。もともとはスモールビジネスに原点があり、その主要な担い手は地域企業である。このような新しいビジネスの仕組みについて学ぶ。
経営特別講義 I	経営専攻に関わる専門研究領域の研究者や実務家を学内外から招聘し、当該学術分野における最新の研究事例や社会動向を学ぶ。なお、開講年によっては、講義テーマや講師が異なる場合がある。

授業科目名	講義等の内容
経営特別講義Ⅱ	グループワークやフィールドワークを通じて、自ら課題を発見し、解決する力を養成する。なお、開講年によっては、グループワークやフィールドワークのテーマやアプローチが異なる場合がある。
観光地理学	<p>観光地理学は、観光資源が存在する地域を対象として、観光活動が行われる地域の構造や成立過程の解明が主たるテーマとなる。「観光地」をひとつの地域として捉えれば、そこに観光資源が分布し、開発の沿革や観光産業の発達過程と立地、地域の歴史や生活、文化などとの関わりなどの観光地域論的アプローチが可能となる。</p> <p>本講義では、観光資源の分布を概説し、歴史的な観点からの観光地域の形成過程や観光産業の立地に関する理論を説明する。具体的には、日本各地の観光地の事例を取り扱う。観光地理学的な考察、地域特性や変容から読み取る観光地の方向性などの議論まで高めたい。</p>
観光産業論	観光産業の現状と全般的な課題、個別観光産業の特性や問題点等を学習する。観光産業は、観光に関わる個別産業の総称であり、その事業内容や特性は各産業により大きく異なっている。本講義においては、まず観光産業を構成する個別産業（交通、宿泊、旅行、イベント、アトラクションなど）の活動実態を概観したうえで、これら産業に共通する企業経営上の重要課題やトピックスについて学習を進める。
経営管理論	経営管理論は経営資源であるヒト・モノ・カネ・情報に関する分野を網羅し統括する管理論である。すなわち、ヒトに関して①人的資源管理論、モノは②生産管理論、カネについては③財務管理論、そして情報は④経営情報管理論という具合に4つの分野を中心に学んでいき、それらの総合的な視点で企業経営を経営管理するとはどういうことなのかを考えて行く。本講義では、4つの視点から企業経営における特質と問題点を把握し、自分なりの解決策が提示できるよう深く考えることが求められる。
問題解決の心理学	情報化社会の進展とともに、迅速で正確な意思決定を迫られる場面が増える一方で、氾濫する情報の中から適切な情報を選択し、関連づけ、創造的なアイデアを練り上げることが求められるようになってきた。様々な問題解決場面における個人の思考プロセス、さらに集団による意思決定のダイナミックスを検討する。また効果的な問題の整理・解決の技法等についても学習する。
旅行業経営論	旅行業務に関する取引の公正を確保するため、国家試験に合格した有資格者が旅行業者各営業所に配置されなければならない。この講義では、国土交通省が行う「国内旅行業務取扱管理者」の国家試験対策を行い、試験に合格することを目標とする。試験科目である旅行業法令、旅行業約款、国内旅行実務を学ぶ。
旅行業法と約款	旅行業務に関する取引の公正を確保するため、国家試験に合格した有資格者が旅行業者各営業所に配置されなければならない。この講義は、国土交通省が行う「国内旅行業務取扱管理者」の国家試験対策を行い、試験に合格することを目標とする。試験直前のこの集中講義では、練習問題や過去問題を行い、合格のためのテクニックを身につける。

授業科目名	講義等の内容
人的資源管理論	本講義では、4つの経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）のうち、ヒトにポイントを絞って、理論だけでなく現代的トピックも織り交ぜながら学ぶ。具体的には理論編として、人間モデル、組織行動、キャリア開発、人材育成、人事評価、労使関係などを学び、現代的トピック編として、多様化する雇用問題を女性労働、非正規雇用、在宅勤務、ワーク・ライフ・バランスなどの視点から学んでいく。
地方自治論	地方分権の流れとともに地方自治体をめぐる出来事をメディアで取り上げることが多くなっている。「地方自治の実践は民主主義の最良の学校」とも言われるが、現代日本においてはどのように実践されているのだろうか。本授業では、地方自治の仕組みについて説明するとともに、地方自治体において争点となっている具体的な案件を紹介する。授業中には、理解の促進のため、授業で紹介した案件について受講生によるディスカッションも行う。
国際関係論	本講義は、過去数十年の急速な経済成長を背景に、国際社会における存在感を増しているアジア太平洋諸国の国際関係を考察する。アジア太平洋地域の複雑でダイナミックな国際情勢を、政治外交、経済協力、地域機構、民主化、社会変動、領土問題、安全保障といった多角的な視点より考察する。
国際政治論	過去30年間、政治経済から文化や科学や環境に至るあらゆる領域において「地球規模のスケールをともなった相互接続(Globalization)」が顕著となってきている。本講義では、Globalization をキーワードに国際政治の動向と問題点を、実例や理論を通して深く考察する。
市場調査論	市場調査論（マーケティング・リサーチ）は、企業戦略やマーケティング戦略における諸問題を識別、把握、解決するために必要な情報を探索・収集して分析する手法の一つである。この講義では、市場調査の基本概念から、データ収集方法、分析手法、そして報告書の作成について学ぶことを目的とする。
情報系インターンシップ I	将来情報系分野の社会人として働くことの意味、組織のしくみや仕事のプロセス、職場における人間関係・チームワークなどについて、県内外の情報系企業の実践現場にて学ぶ。実社会を体験し、望ましい勤労観や実務能力を身につける。実習前に計画書を作成し、インターンシップ終了後、報告書の作成および報告会を行い、ふりかえりと情報の共有を行う。
病院実務 I	病院実務 I では、学生が地域における医療コミュニティの現場を体験する。具体的には、病院・診療所等で医療提供者サイドに立ち、案内、受付等の患者支援活動を行う。患者は医療情報の出発点であり帰結点ともなる存在であるが、その前に当然ながら一人の人間である。地域の患者と接しながら、医療提供者の一人として患者に貢献する喜びを実感し、病院における業務について興味、関心、学習意欲を高める。
交通産業論	本講義は3年次以上の学生を対象として、交通産業における理論および観光に関する交通産業の役割を体系的に学ぶ。主に、航空産業および陸上交通産業を中心に解説し、観光における交通産業の役割と重要性に関する理解を深める。まとめとして地域における交通の役割を詳述し、これからの交通産業のあり方を考える。

授業科目名	講義等の内容
経済政策	<p>経済政策は、私達の生活にとって望ましい社会の実現、例えば安全・安心した老後、市場の失敗の緩和や除去、例えば、失業、インフレーションやデフレーションの防止などを行うために経済のどこが悪いのかの診断を行い、実践までの道筋を提供する学問である。本講義では、経済学等の理論を基礎に理想的社会の実現に向けてのプロセスと民主主義社会に生きる私たちのあるべき姿を学ぶ。</p>
観光政策論	<p>本講義は、観光学を学ぶ最後の総まとめとして、今まで学習した内容や、キャンパス内外で経験した内容を整理しながら、観光政策について学ぶ。観光政策は、観光の供給、需要の両面から、地域がめざす将来像(ビジョン)に向かっていくためのシナリオを作成する作業である。本講義では、観光政策の考え方と方法について、政策科学と観光学を基礎として理論と事例によって学習をすすめていく。</p>
地域経済学	<p>これまで日本は、キャッチアップ型経済の中で国土利用とか、産業の最適配置という問題を国民経済の視点から考えてきた。しかし、経済のグローバル化、高度情報化(IT革命)の急速な進展に伴って中央集権的タテワリ行政システムの見直し、地域住民のニーズ、地域の経済自立のための施策等、地域からの視点(「地方の時代」)がより重要になってきている。本講義では地域の経済的自立の条件とは何か、産業集積のメカニズムとは、競争優位を創出するためには何が必要か等、経済学の基本的概念、理論を用いて地域経済について考えていく。</p>
観光経済学	<p>観光は経済学、経営学、マーケティング論、ホテル・レストラン経営論、交通論、社会学等と多かれ少なかれ関わっており、極めて学際的な研究領域である。本講義においては観光を経済学的視点から、経済学の基本的概念、理論を用いて複雑な観光現象を分析し説明する事を試みる。</p>
観光開発論Ⅱ	<p>観光事業論および観光開発論Ⅰで学んだ観光開発の概念や仕組み、地域に与える影響などを基礎として観光開発および観光振興の計画評価に必要な方法論を解説する。観光振興の目的や方向性、戦略などを解説し、日本国内を中心とした観光振興の先進的な地域を事例として取り上げ、理論と実践、現実の意味連関を論じる。</p>
ホテル計画論	<p>ホテルづくりの基礎理論を「夢のホテル、マイプラン作成」のグループワークを通して具体的に履修する。レストランやブティックなどの事業計画にも幅広く応用される理論であり、起業を志す学生にも受講を奨励する。</p>
グローバル・ビジネス論	<p>近年、企業の活動の拠点として、市場の対象(販売先)あるいは供給先として「海外」が注目されていることは周知の事実となっている。このような行動は大企業だけのものではなく、中小規模の企業においても盛んに取り組まれているのが現状である。そこで企業における「海外」活動つまりグローバルなビジネスとは、どのような意味があり、どのような効果をもたらすのかについて学んでいく。</p>

授業科目名	講義等の内容
産業情報論	産業界では次々と革新される情報技術を用いて、積極的に改革を進めている。本講義では最新の情報技術を用いた情報システム化の動向を学習する。特にインターネットを中心とする情報ネットワーク化の飛躍的な発展に伴うオフィスや業務の形態に関しても学習する。
ホスピタリティマーケティング論	この講義では、1・2年次に学んだ観光学概論や経営学のマーケティングに関する基礎知識をふまえ、観光産業やホスピタリティ産業の経営全般について、その現代マーケティング理論がどのような役割と関連性を持っているのかについて概論的に理解する。週に2回連続授業を行う。
経営分析論	複式簿記の基本的知識と技能を修得した学生を対象に、企業の経営活動の良否の判断に役立つ経営分析の手法を学ぶ。具体的には、企業が公表する財務諸表(貸借対照表・損益計算書)を用いて、安全性・収益性・成長性・生産性の分析を行う
ホテル実務	ホテル業は観光ホスピタリティ産業の中核であり、そこに従事するホテルエは幅広い知識と教養に加え、専門的な実務能力を有していなければならない。そのための機会を提供すべく、沖縄県内の複数の著名ホテルと提携した。これら提携先ホテルにおいて基本実務を体験的に学び、最終的にレポートにまとめる。
海外インターンシップ	海外の企業などで一定期間研修を行うことにより、国際感覚と語学力を養い、ビジネスマナーや職業意識を身に付けさせる。事前学習として海外研修のために必要な予備知識・能力を得るための授業を行なうとともに、国内企業での事前研修も実施する。なお、派遣学生は選考の上決定する。
エコツーリズムⅡ	エコツーリズム(Ecotourism)は、一般的には「訪問地の自然・文化をより深く知り・学び、自然・文化の保護・保全と地域の振興に寄与する観光形態」と理解される体験型の観光を示す概念である。基本的な概念については、「エコツーリズムⅠ」の中で述べてきた。本講義では、「エコツーリズムⅠ」の内容をより深め、現状(特に沖縄県の事例)の理解と体験を通して、より実態に近いエコツーリズムの理解を深めることを目的として行われる。
ホテル経営論	ホテルの経営のなかでも、特に人的資源管理に焦点をあてその基礎理論を学ぶ。研究対象は国際級ホテルとする。導入として、国際級ホテルの魅力や特性について事例を挙げて考察する。その際、ホテルの国際的かつ客観的評価にも触れる。そして、国際級ホテルの人的資源管理、なかでも、有為な人材の採用、配属・異動、能力開発のための教育訓練について論じる。
国際コンベンションビジネス	コンベンションビジネスとは何か、コンベンションビジネスが立脚するために必要な要素や昨今話題に上る MICE、観光産業との関係、コンベンションビジネスによる地域への波及効果について本講義を通して学習する。また、国内外の事例などを通して、地域におけるコンベンションビジネスについて考える。

授業科目名	講義等の内容
ホスピタリティ マネジメント論	ホスピタリティ関連企業における経営の基礎理論を学ぶ。導入として、研究対象であるホスピタリティ関連企業の特性について考察する。また、今日では一般企業や各種団体などの経営（運営）においてもホスピタリティが重要視されているが、その現状や課題などについて事例を挙げて論じる。
観光資源論	観光資源の概要を解説し、観光地における資源マネジメントの理論を説明する。具体的には、世界または全国的な観光資源の事例を取り扱い、観光資源に関する文化および歴史的な背景と特徴を概観し、まちづくりや観光振興における活用方法を考察する。
アジアの政治と社会	アジアにおける社会的、政治的問題に焦点を当て、近現代アジア、特に東アジアの社会と政治にみられる共通する特徴と同時に、それぞれの国が抱える個別の問題についても理解を深めることを目的とする。主要テーマは、東アジアにおける統治の構造と民族、支配と被支配、国際環境と国内政治などを中心に、国別に時系列で検討していく。
組織心理学	産業・組織場面における人間行動について、心理学的な観点から分析・考察することを目標とする。具体的には職業適性、キャリア発達と人材開発、職場内の対人行動や仕事への動機づけなど、産業・組織心理学研究の知見を紹介する。また、組織デザインの観点から組織風土とリーダーシップについても取り上げ、効果的な組織運営について論じる。
対人コミュニケーション論	情報化社会においても対人コミュニケーションの重要性は変わらない。この授業科目では、他者の意見や行動を変え、他者の持つ印象を操作し、他者を欺き、他者と交渉し、他者とのうわさを楽しむといった対人コミュニケーション研究に焦点を当て、専門用語及び理論展開について論じる。
チームマネジメントの 心理学	この授業科目では、産業・組織心理学的観点からチームマネジメントについて検討する。社会人基礎力の主たる要素として強調されるようになった「チームで働く力」について、リーダーシップ、モチベーション、コンピテンシーなどの概念と結びつけながら具体的に考察していく。さらに実践を通して、チームマネジメントのための課題分析とリーダーシップの向上を目指す。
余暇社会学	この授業では、現代社会における余暇の意味と機能等を社会学的な観点から学ぶ。また、余暇と労働の関係、余暇の社会理論、近代、脱近代における余暇の意義について理解する。さらに、余暇と観光の関係、観光社会学について学習する。
地域マーケティング論	都市・地域再生やまちづくりについて、マーケティングの理論を援用しつつ、現状と課題、今後の取り組みについて理解することが本講義の大きな目的である。近年の人口減少と少子高齢化社会の中で、多くの都市や地域が活性化、再生、まちづくりというキーワードを掲げ、様々な取り組みにも関わらず疲弊する一途である一方で、活性化への活路を見出しているところもある。このような都市・地域が抱える問題や取り組みについて、理論と実践の両面より受講生の皆さんと一緒に考えていくことを目的とする。

授業科目名	講義等の内容
観光関連実務	<p>沖縄県の観光はその優位性からリーディング産業と位置付けられ、県経済発展に大きく貢献してきている。特に、近年、入域観光客が 700 万人を超え、リーディング産業としての役割はこれまで以上に大きくなっている。沖縄県では数多くの観光振興策やリゾート開発プロジェクトが県全域において計画・運営されているが、この分野に関わる人材が量・質ともに不足しており、観光産業の振興をリードするスペシャリストの育成が急務となっている。本講義では、様々な観光関連企業等で長期間にわたる実務（実習）を通し、観光産業の発展に貢献できる人材育成をすることを目的として実施する。これにより、「理論」と「実践」を備えた、観光業界のニーズに対応できる学生を育成する。</p>
情報系インターンシップⅡ	<p>将来 IT を活用したビジネス分野の社会人として働くことの意味、組織のしくみや仕事のプロセス、職場における人間関係・チームワークなどについて、県内外の情報系企業の実践現場にて学ぶ。実際に当該業界で IT を活用したビジネス現場を体験し、望ましい勤労観や実務能力を身につける。実習前に計画書を作成し、インターンシップ終了後、報告書の作成および報告会を行い、ふりかえりと情報の共有を行う。</p>
病院実務Ⅱ	<p>病院実務Ⅱの目的は、学生が在学中に病院実習（病院実務Ⅲ）を行う前に、社会や病院・組織の実状を知り、仕事に対する興味、関心、学習意欲を高め、ビジネスマナーや職業意識を身につけることである。具体的には、業界研究、実習先研究、自己分析、履歴書作成などを行う。</p>
病院実務Ⅲ	<p>社会人として働くことの意味、組織の仕組みや仕事のプロセス、職場における人間関係・チームワークなどについて、病院実習を通して実践現場にて学ぶ。実習終了後、報告書の作成および報告会を行い、振り返りと情報共有を行う。</p>
観光産業系 インターンシップⅠ	<p>観光分野は実務を経験し、理論と実践を融合することが大切である。本科目では学生自らが実践の場（観光関連企業、研究所等）を応募・選択し、インターンシップ体験を通して、大学で学ぶ講義の内容が現場でどのように活用されているかを理解する。本科目では 3 日以上インターンシップが対象である。</p>
観光産業系 インターンシップⅡ	<p>観光分野は実務を経験し、理論と実践を融合することが大切である。本科目では学生自らが実践の場（観光関連企業、研究所等）を応募・選択し、インターンシップ体験を通して、大学で学ぶ講義の内容が現場でどのように活用されているかを理解する。本科目では 5 日以上インターンシップが対象である。</p>

専攻専門教育科目 自然科学系科目

授業科目名	講義等の内容
プログラミング入門	演習を通じてプログラミングの基礎について学ぶ。実際にプログラムをつくりながら、プログラムが動くしくみ、プログラム開発の手順、統合開発環境の使い方について学習する。また、演習問題を通じて、変数の使い方、プログラムの3つの基本構造である「順次処理」「分岐処理」「繰り返し」について学習する。
コンピュータ・グラフィックス	統合3次元CGソフトウェアを用い、コンピュータグラフィックスの演習を行う。具体的には、モデリングから、表面の設定(色、模様、反射の特徴など)、照明とアニメーションの設定までを含む。静止画や動画として出力する方法も学ぶ。
ウェブデザイン	ウェブページ作成に必要な様々な基礎知識と技法を学習し、ウェブページの作成を通して知識と技術の理解を深める。
ウェブグラフィックス	インターネット上に視覚的に魅力的なサイトを構築するために、ウェブグラフィックスに関する知識が重要である。本講義では、ウェブデザインに必要な様々なグラフィックス技法を学習する。
診療情報管理論 I	患者が受診すると必ず診療録が作成され、診療の過程で発生した身体状況、病状、治療などに関する情報が記録される。近年、診療情報管理を適切に行うことが医療の質の向上につながることから、診療情報管理の重要性についての認識が高まってきている。そのため、診療情報に関する理解を深め、記録のあり方とそこから発生する情報の活用、管理体制や管理手法、診療情報管理業務を円滑に行うための組織づくりなどを学ぶ。
人体構造・機能及び医療用語	原則として人体は、細胞とその間質と水分から構成されている。細胞は、役割ごとに集団を作り組織となる。組織が集まって器官(臓器)となり機能を発現する。器官、臓器がいかに他の臓器と連携し、人体としての営みに関わっているかを理解する。専門分野におけるコミュニケーションに対応して聴くためには、医療用語の知識が必要である。頻度の高い医療用語を修得し診療記録を適切に理解できることを目的とする。
医療概論及び臨床医学総論	<p><医療概論>医学と医療に関する歴史の変遷を知ったうえで、医の倫理に関して理解を深める。また、社会保障制度の原則と実態を知り、医療の社会的役割を総合的に理解する。</p> <p><臨床医学総論>医学は人体の仕組みを明らかにし、健康を維持するための学問であり、基礎医学と臨床医学に分かれている。両者は渾然一体となって人間の病を癒し、生命を助けるという明確な目的を持った学問であることを学習する。</p>
臨床医学各論 I (感染症・寄生虫症・新生物)	<p>個々の感染症・寄生虫症についてその原因微生物、疫学、検査方法、治療についての知識を深め、各種診療記録の内容を理解することを目指す。</p> <p>新生物は、身体すべての臓器・組織に発生する疾患として、全診療科で扱われる重要な疾患群である。わが国における主要な新生物を中心に、適切な国際疾病分類に結びつける基本的な知識を修得することを目的とする。</p>

授業科目名	講義等の内容
医療管理総論	医療の成立における社会資源の必要性を理解し、「人的資源」「物的資源」「財的資源」「情報資源」を具体的に理解する。わが国の特徴的である医療保険制度を理解し、実務に対応するための知識を得る。後半では、病院管理・診療情報管理に求められる姿を理解し、医療サービスの提供に関する組織、運営の実態を理解し、診療情報の活用に関する考察を深めることを目的とする。
医療管理各論	わが国における社会保険制度としての医療保険・介護保険を理解し、診療報酬制度および診療報酬請求業務までを学ぶ。旧来の出来高請求から、診断群分類（DPC）を活用した包括評価請求業務全般を知り、診療情報管理の重要性への理解を深める。また、質の高い安全な医療を提供するためには医療安全と医療の質管理はきわめて重要であり、診療報酬請求制度におけるデータ活用は医療の質や経営の質および病院の将来を決定する計画策定のための重要な指標となることから、必要な基礎知識を深めつつ対応できる力を備える。
保健医療情報学	保健医療情報学とは、情報通信技術（Information and Communication Technology, ICT）の、保健医療分野への利活用を研究し応用するための学問である。診療情報の電子化がますます進み、医療機関内の情報化から地域医療の情報化へ、また医療のみならず、保健・介護・福祉分野間の ICT による情動的連携が実現しつつある中、ICT を活用して有効かつ的確に診療情報を管理・二次利用できる能力は重要である。ここでは、医療情報システムの実際、その標準化の動向、情報セキュリティ管理、個人情報保護の方法などについて学習することで、ICT を活用した的確な診療情報管理の重要性への理解を深める。
ゴルフ I	ゴルフの初級コースである。大北ゴルフ練習場において、スイングの基本を身につけるためテーマ別にレッスンを組み立てる。ゴルフのスコアメイクに最も重要な技術であるアプローチ方法のピッチ&ラン(ピッチング)などの各種アプローチショット、グリーン上におけるパッティング(パター)、砂場から放つバンカーショットの技術習得に努めるとともに、スイングの基本であるボディターンを身に付け、効率よいスイングプレーンを習得する。
ゴルフ II	前学期に学んだゴルフ I を踏まえたゴルフの中級コースである。大北ゴルフ練習場において、スイングの基本を復習・完成させるためにテーマ別にレッスンを組み立てる。ミドルアイアン(7番)のショット、アプローチのテクニク、ランニングアプローチ、フェアウエーウッド、ドライバーにけるスイングおよびショットの完成度を高め、目標に向け正確にショットできることを目指す。
スクーバダイビング	本講習はダイビングが初めてという人のための入門コースである。講習カリキュラムは、①学科講習、②限定水域実習(浅瀬での訓練)、③海洋実習(オープンウォーター)から構成されている。規定の講習を修了すると、PADI スクーバダイバーの C カード(認定証)が取得できる。

授業科目名	講義等の内容
野外活動演習	近年、一人ひとりの個性を生かした豊かな人間性や創造性を育む教育の必要性、生きる力の涵養、それに伴う体験学習の充実が教育課題になっている。こうした課題に応える野外活動、特に組織キャンプについて学ぶ。授業内容は、理論と実技。理論ではキャンプの意義・目的、組織キャンプの組織・運営、指導者の役割、ルール・マナー、環境教育、安全管理等について学ぶ。実技面は、2泊3日のキャンプ実習を通して、自然体験、野外生活技術を身につける。教育目標は、組織キャンプについての基礎的理解を基に、キャンプ実習では“為すことによって学ぶ”をモットーに自らの問題解決能力、野外生活技術を高める。
救急処置	生活の中での思わぬ事故・ケガ、または体育・スポーツ活動中の事故・ケガに対し、応急処置の知識があれば適切な対応が可能である。本講義は応急処置の基本から実践までを学ぶ。
データ処理入門	様々な分野においてデータを処理するスキルが求められている。この演習では、表計算ソフトを使用し、応用的なデータ処理方法を解説する。データの取り扱いや統計処理の考え方、データを処理し、理解しやすい表現にする方法を学習する。
地球の環境とその保全	地球規模や地域レベルの環境問題が深刻になり、いまや環境問題は各国や地方自治体の政策決定にも重要な影響を及ぼしつつある。いわゆる環境問題といわれるものは人間と環境との関わり方の問題であり、この問題の解決には人間が自然環境を理解し、如何にこれら環境に接していくかが重要である。本講義では自然環境を保全して行くにはどうすればよいのか考えて行く。
診療情報管理特別講義Ⅰ	診療情報管理専攻に関わる専門研究領域の研究者や実務家を学内外から招聘し、当該学術分野における最新の研究事例や社会動向を紹介する。なお開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。
診療情報管理特別講義Ⅱ	診療情報管理専攻に関わる専門研究領域の研究者や実務家を学内外から招聘し、当該学術分野における最新の研究事例や社会動向を紹介する。なお開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。
沖縄の植物と保護	1)琉球列島の自然環境の概要、2)植物分類学・生態学の基礎、3)琉球列島の維管束植物、4)沖縄県の植物の保護についての理解を深め、植物と人間の生活のかかわりについて考察する。
自然地理学概論	現在の地球はどのような歴史的変遷を経て成立してきたのか。地球の誕生からプレートテクトニクスによる大陸の離合集散、第四紀の氷河性海水準変動、自然環境と人類の関わり合いの歴史を通して学ぶ。自然環境の具体例として、日本列島の火山、山と川、森林などの「風景」が、どのようにしてできたのか理解する。また、自然環境の開発と保全、災害、資源利用など、自然と人間の関わり方について学ぶ。現在の沖縄の自然環境と、その開発・保全の問題についても考えていきたい。

授業科目名	講義等の内容
国際ネットワーク論	通信ネットワーク、インターネット・コミュニケーションの基礎を学び、それらが世の中でどのように利用されているかについて考察する。また、インターネットに接続するためのハードウェアやその設定、またインターネットの仕組みやセキュリティなどについて学ぶ。
ネットワークの構築と運用	実地的なネットワーク構築と管理をテーマとする。サーバ管理者として、基本 OS やアプリケーションのインストールを体験し、ユーザアカウント作成・管理、ネットワーク設定及びセキュリティ管理を行う。
プログラミング言語論	コンピュータでのプログラミング演習を行いながらプログラミングの方法やプログラミング言語を学んでいく。内容としては、プログラミング言語の基本、基本データ型と変数、演算、制御構造、配列、及びアプリケーションの仕組みと作成手順等について講義する。
上級プログラミング	プログラミングの経験者を対象に、プログラミングスキルを磨き、オブジェクト指向プログラミングの構築法とその応用について学習する。さらに、本格的なアプリケーションの開発を行う。
アルゴリズム論	問題解決の手順をアルゴリズムという。それぞれのアルゴリズムには個性があり、得意不得意がある。本講義では、基本的なアルゴリズムを学習しながら、より効率的なアルゴリズムについての理解を深める。
データベース概論	データベースとは、管理された情報の有機的集合をいう。但し、ただ単に情報の収集、蓄積をただけではデータベースを構築した事にはならない。多次元での結合、意味付けされた組み合わせを行う工程が必要となる。この講義では、データベースの概念や仕組みを学習し、データベースを設計する事によって理解を深める。
データベース実践	本講義では、データベース概論を基本に、より実践に近いデータベース設計・構築方法を教授し、実際に SQL 言語を使用した演習を行い、リレーショナル・データベースの知識を深める。
ネットワーク技術 I	ネットワークの基本的な概念とテクノロジーをテーマとし、情報のデジタル表現、ネットワーク機器、データ通信プロトコルを学習する。
ネットワーク技術 II	ルーティングの理論と技術を学び、簡単な LAN を設計できるようにする。実際にルータを設定して確実なルーティングを行うにはどうしたらいいか、ネットワーク・プロトコルや経路制御プロトコルについて学び、ルータの基本的な設定と構成が分かるようにする。
ウェブコンテンツ実践	本講義は、WEB サイトの構造やデザインを記述する技術や方法を基礎から解説する。受講生は、WEB サイトのテーマや目的の設定の具体例を学び、模擬的な WEB サイトを構築しながら、WEB コンテンツ制作に関する知識と技術を習得する。

授業科目名	講義等の内容
臨床医学各論Ⅱ (血液・代謝・内分泌等、 精神・脳神経・感覚器系)	血液・造血器、栄養・代謝、内分泌系等の障害により、病態が全身に関わる疾病について重要な全身疾患として、基本的知識を習得する。精神・脳神経・感覚器系については、主として部位別、臓器別疾病分類となっている。各疾患についての概要を学び、診療記録の記載などを理解し、傷病名に繋げる知識の習得を目的とする。ここでは、神経系の疾患、眼、耳など感覚系疾患についても学ぶ。
臨床医学各論Ⅲ (呼吸器・循環器、消化器 ・泌尿器)	生命の維持に関わる呼吸器・循環器系の疾病について、その特徴、症状・所見、診断法、治療法を学び、各種診療記録の記載などを理解し、適切な傷病名につなげる知識の修得を目指す。腹部に位置する消化器系および泌尿器系の疾病についても、その特徴、症状・所見、診断法、その概要を学び、適切な傷病名につなげる知識を修得する。
臨床医学各論Ⅳ (周産期系、皮膚・筋骨格系)	周産期に発生する病態について、その特徴、概要を学ぶ。また、“妊娠の成立”という現象で、母体の変化、胎児の発育、分娩までの基本を学び、周産期の障害、奇形、染色体異常などについて理解する。身体の形態、運動器官に関わる皮膚、骨、筋肉、関節等の疾病についての概要を学び、各種診療記録の記載を理解し、適切な傷病名につなげる知識を修得する。
診療情報管理論Ⅱ	従来一般的な診療情報管理士の業務は、「医師や他の職種から発生する各患者の診療記録を集め法的なルールを守りつつ、一定の方式で整理し、必要ときに直ちに提供できるように管理する」ことが中心であり、実務としては診療記録の管理を診療情報管理室で行っていた。しかし、近年、診療情報管理業務が拡大し、また組織内の様々な部門での活躍が期待されるようになってきている。ここでは診療情報管理士の関与が重視されている DPC 業務や医師事務作業補助者業務、がん登録業務等について、医療現場において求められる内容を学習する。
国際統計分類Ⅰ	国の将来の人口の動態事象を把握することは行政施策においてとても重要である。ここでは、まずわが国の人口動態統計の仕組みと意義を理解する。また、人口動態統計に用いられる国際疾病分類 (ICD) の歴史と現状、関連する国際機能分類 (ICF) などの国際統計分類群 (ファミリー) に属するその他の分類体系についての理解を深め、健康情報に関する幅広いコード体系についての意義と問題点を理解する。そして、わが国に導入されている DPC/PDPS 制度における ICD の利用について理解する。
空手	沖縄が発祥の地である空手道について、その歴史的背景と文化的背景を講義し、実技指導を通して実践的に空手道を学び学校教育の中でも指導できる能力を養成する。活力ある国際社会の形成者として時代の変化に対応し得る教育の方法を追求する。実技を通して健康の維持・増進や体力の向上を図る。講義と実技を併用して実施する旨、トレーニングウェアで参加する (空手道着が望ましい)。講義及び実技は体育館にて行う。(講義については必要に応じて資料配付)
スポーツ産業論	スポーツに親しむ人々の動機や目的も「健康志向」が目立ってきており、従来のスポーツ産業と健康産業がクロスオーバーする新たな「健康スポーツ産業」の領域が生まれた。スポーツ経営学を基盤にし、産業としての健康スポーツ施設経営の現状と課題について学ぶ。

授業科目名	講義等の内容
ウェルネス概論	ヘルス・フォー・オールの実現するために不可欠な 21 世紀の健康戦略としてのヘルスプロモーション・ウェルネスと PHC(Primary Health Care)について概説し、21 世紀に向けた健康社会実現への健康思想の構築を図る。また、沖縄県で全国に先駆けて行っているドルフィンセラピーについても解説する。ヘルスプロモーション・ウェルネスの理論を学び、健康社会構築のマネジメント力を身につける。
環境調査法	環境について様々な側面から理解するために用いられる測定・分析の方法と、それらの特徴・適用性について講義する。さらに、実習を通してこれら測定技術を身に付けるとともに環境を科学的に分析・記録・考察する姿勢を学習する。
情報システムズ特別講義Ⅰ	情報システムズ専攻に関わる専門研究領域の研究者や実務家を学内外から招聘し、当該学術分野における最新の研究事例や社会動向を紹介する。なお開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。
情報システムズ特別講義Ⅱ	情報システムズ専攻に関わる専門研究領域の研究者や実務家を学内外から招聘し、当該学術分野における最新の研究事例や社会動向を紹介する。なお開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。
医療統計学	この授業科目では、診療記録(カルテ)に含まれる医療の質に関わる情報、傷病名等、必要な医療情報から統計的方法による分類と要約、図表を用いた視覚化を学習するとともに、基本的な記述統計学及び推測統計学の用語ならびに仮説検定の方法を修得し、病院の統計資料について適切な解釈ができることをめざす。
環境アセスメント論Ⅰ	国内外における環境アセスメント制度の成立背景と経緯・趣旨を解説し、現行の制度とその意義、さらに運用の現状と今後の課題について講義する。
環境アセスメント論Ⅱ	環境アセスメント制度が立脚する環境関連法制度と、環境影響評価で用いられる基本的な環境測定および影響予測のための技術体系について、国内外における環境アセスメントの事例を参照しながら現状と今後の課題について解説する。
健康と長寿	健康な状態で長生きしたいということは多くの人々の共通の願いであり、これから生きていく上で重要な課題になっている。本講義では、健康と長寿に関する理解と現代社会における健康と長寿の重要性について検討する。また、健康長寿の秘訣を食文化、生活習慣、生き方等の観点から説明する。さらに、ヘルスツーリズム、ウェルネスツーリズム、メディカルツーリズムに関する知識を習得し、健康とツーリズムの関係について理解する。
自然観察指導法	自然観察を指導するインタープリターには、多様な参加者と観察対象の状況に配慮した安全で内容豊富な適切なガイドを行う力量が求められる。さまざまな自然環境の中で、観察対象として何を取り上げ、分かりやすく、興味深く感じるようにガイドするかが重要である。本講義では、野外で自ら自然観察を行い、また他の受講生に自然観察を指導する実践的学習を行う。

授業科目名	講義等の内容
システム設計論	<p>情報システムの開発の手順、方法、その内容を理解することが当講義の目的である。当講義では、適用業務システムの開発工程とは何かを学習し、開発工程(外部設計、内部設計、プログラム開発、テスト)に沿ってシステム開発の方法を学習する。同時にシステム開発で使われている各種の開発技法についても学習する。</p>
ネットワーク技術Ⅲ	<p>実際にルータを設定して確実なルーティングを行い、ネットワーク・プロトコルや経路制御プロトコルについて学び、スイッチ・ルータの基本的な設定と構成が分かるようにする。LAN 設計・ネットワーク管理についても学ぶ。</p>
国際統計分類Ⅱ	<p>これまでに学習した人体構造（解剖生理）、医学各論の知識を生かし、国際統計分類Ⅰの学習と関連付けながら、ICD-10の疾病分類体系を学習し、その特徴を踏まえて統計として正しい分類が出来るよう理解を深める。また、単純な疾病のコーディングだけでなく、退院時要約等を用いて診療記録の記載内容を理解し把握した上で、主傷病等の診断名および原死因の統計上必要なコードを正確に選択するための知識を習得する。</p>